

中小企業経営の課題

財団法人 大阪科学技術センター
 ATAC 副会長 荒川 守正

私は、200～300人規模から500～600人規模になった化学会社に15年間、その後10数人で創業して70人規模になった化学分野の研究開発会社の経営に30年間携わってきましたが、未だに自慢できるような経営手法を見出したわけではなく、日々迷い苦しんできました。

何事をするにも時間をかけ、金をかけ完璧な準備をして、仕事にかかればよいのですが、中小企業ではそんな余裕がないのが普通です。現場・現物・現実をしっかり見て、後は即断・即決して行動を起こさねばなりません。そして、結果が悪ければ、また直ちに改めればよいと思っています。他人からの依頼、通信でも即答を心掛けています。

昨年からは経営の座から離れましたが、中小企業では、トップは自分の考えを常には

っきりと社員に伝え、会社が一丸となって目標に進まなければなりません。5年先の会社の姿を簡明に、具体的に描き、社員全員にも会社の未来像を共有してもらって、心を一つにして挑戦できるようにと心掛けてきました。

中小企業の経営者の一番の悩みは、後継者の問題でしょう。一族の中に適任者があれば、それほど目出度いことはありませんが、自分だけで悩まず信頼できる外部の力を借り相談することも一策だと思っています。

“現在の課題は何か”を見出すためには次の表を作ってみると明白になります。

例えば、原材料の項で、原材料の品質はOKか、量的にはOKか、発注後納入までの時間はOKか、仕入れ価格はOKか、原材料の合格率歩留まりはOKかという具合に使ってください。

【課題確認チェック表】

	質	量	時 間	金	率
人 財					
原 材 料					
設 備					
製 品					
金					
時 間					
情 報					